

# 東日本大震災 対策本部情報

98号

2011/06/2

## 釜石地区ボランティア 高崎地本と盛岡地本組合員が 鵜住地区で泥出し作業を行う

6月1日、高崎地本前橋支部の4名と盛岡地本6名の組合員は、釜石市北部の鵜住地区にある消防団施設の泥出し作業を行いました。津波発生からもうすぐ3ヶ月が過ぎようとしていますが、鵜住地区は、いまだに手つかずの状況におかれています。家の片付けをしていた住民も「片付けようにも、方向性が示されていないから手がつけられない」と復興の方向性が見えない状況に不満の声を漏らしています。

参加者は「1日作業しても12畳の部屋の泥出ししか終わらなかった。復興には継続した支援が必要だ」「2階に避難してきた住民60名が津波で亡くなったと聞き、胸が締め付けられる思いがした」「津波の被害の大きさに自然の脅威を感じた」「住民の暮らしを守るために本来、真っ先に回復させるべき施設が手つかずの状況に唖然とした」「国は復興政策を推し進めるというが、何をしているのか。住民のことを考えているのか」などの感想が出されました。

